

## 52 ヨハネ 16 章 1-15 節

※前回、「クリスチャンが心しておかなければいけない現実」というテーマで学びました。あのイエス様でもこの世から嫌われ、憎まれました〈実質は、無知から来る偏見や妬み、嫉妬でした〉。そうであれば当然のこと、そのしもべであるクリスチャンにも同じようなことが起こってくる可能性があるのです。その真理についてもクリスチャンは心しておかなければなりません。しかし、それだけでなく、今日の箇所には、送られてくる助け主聖霊が来ると、どんな恵みがあるかも教えられています。

1、イエス様がこの後起こるであろう困難や迫害の話をしたのは、何のためでしたか？

(1 節)

(4 節)

※私たちがクリスチャンになるということは、悪魔の支配下から神の支配下に移されるということですから、そこには当然それをおもしろく思わない者がいるわけです。悪魔です。そして、あの手この手を使って神から引き離そうとするのです。このことをよく知っておけば、クリスチャンになってから起こる様々な困難や苦難に対しても、対処することはそれほど難しいことではありません。しかし、知らなければ「何でそうなるの」と嘆いてみたり、つまずいたりすることになります。イエス様はそういうことがないように、このことを前もって弟子たちに話されたのです。

2、イエス様が去って行くことが私たちの益になるとは、どういうことでしょうか。

・まず、イエス様が去って行くとは、十字架での死とよみがえり、そして召天で、人間界から去ることを意味しているのですが、それはイエス様にとってどういうものだと表現されていますか？ (5)

・イエス様が去って行くことによってもたらされるものは何ですか？ (7)

・助け主、聖霊が来ると、どういうことを明らかにしてくださると教えられていますか？ (8-11)

〈それらを列挙し、その意味することを語り合ってみましょう〉

① 罪について

※「イエス様を信じない」ことが罪だと認識していましたか？

ではなぜ「信じないのでしょうか」か？それは自分に「罪がある」と考えないからです。

② 義について

※聖霊が来られると、キリストは正しい方、義なる方であることを明らかにしてくださるのです。(ピリピ 3:5-9)

③ 裁きについて

※十字架の死、よみがえりによって悪魔の最後の砦は打ち砕かれました。悪魔は終わりの時の裁きを待つばかりになりました。今はそれが実行されるまでの猶予期間にすぎません。

④ (13)

⑤ その他、イエス様が去って、聖霊が来るほうが益になる理由をあげてみてください。

3、(14,15) に私たちが「父、御子、御霊」を三位一体の神と呼ぶ形があります。

〈あなたなりに父、御子、御霊の関係を言い表してみてください〉

4、このところから神様（父、子、聖霊）はどのようなお方でしょう。